

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月11日現在

機関番号：15301

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20720140

研究課題名（和文） ブラジルにおける日本語教育史構築のための基礎的研究

研究課題名（英文） A Basic Study for Construction of a History of Japanese Education in Brazil

研究代表者

中東 靖恵（NAKATO YASUE）

岡山大学・大学院社会文化科学研究科・准教授

研究者番号：90314658

研究成果の概要（和文）：日本人の集団移住開始から約100年の歴史を持つブラジルの日本語教育史を構築するため、ブラジル・日本で収集した日本語教育に関する書記資料および口述資料により、戦前・戦中・戦後・現代の各時代における日本語教育がどのようなものであったのか、ブラジル日系移民社会を取り囲む社会的背景や言語環境を踏まえ、教育実践の背景にある日本語教育の理念や言語観・子弟教育観と絡めながら記述・考察を行い、歴史的変遷を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：This study clarified the historical transition of Japanese education in Japanese immigrant society in Brazil for about 100 years from the start of mass immigration to Brazil to the present day by analyzing the written materials and interview data collected in Brazil and Japan from the view point of the social and linguistic background and the policy of Japanese language education to the children of Japanese immigrants in Brazil.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2009年度	800,000	240,000	1,040,000
2010年度	700,000	210,000	910,000
2011年度	700,000	210,000	910,000
総計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：言語学・日本語教育

キーワード：南米日系移民社会、言語接触・言語変容、海外の日本語、日本語教育史

1. 研究開始当初の背景

中南米諸国における日本語教育の歴史は古く、約100年前に始まった日本人の集団移

住により中南米各地に創設された日本人移住地における子弟教育に端を発する。とりわけブラジルには日系人口が多く、日本語学習

者人口も群を抜いて多いため、ブラジルにおける日本語教育についての言及も数多く存在する。また、近年のデカセギ・ブームより、来日するブラジル日系人が急増、長期滞在者・定住者をめぐる問題が社会問題化する中、日本語教育の分野においても日系ブラジル人子弟にかかわる日本語教育の問題が多く取り上げられるようになった。

しかしながら、これらの研究で扱われるブラジルの日本語教育研究の多くは、今でも国語教育的な日本語教育を行うブラジルの日本語学校での教育現場への批判や、教育指導法に関する問題点の指摘であり、諸外国での日本語教育とは異なり、継承語としての側面が内包されるという特殊性ばかりが浮き彫りにされることが多く、そこには、日系移民社会における言語状況や言語観・教育観についての考察、言語教育を取り巻く社会的状況の把握・認識、そしてそれらを通時的に考察する歴史的視点が欠如していた。

ブラジル移住が開始されてから約1世紀、その間、ブラジルにおける日本語教育はブラジル国内外の社会情勢に大きく揺り動かされ、紆余曲折の歴史をたどってきた。21世紀を迎えた今、日系1世、2世の減少と高齢化は着実に進行し、日系社会の衰退とともに日本語教育のあり方も大きく変化せざるを得ない状況になっている。ブラジル日系社会において子弟教育として始まった日本語教育は、いまや日系子弟のみならず、対象者を日系成人・非日系人へと広げ、公教育機関における第二外国語教育としての地位を築きつつある。また、長期化するデカセギ現象は、ブラジルにおける日本語教育の方向性に新たな視座を与え、日本語や日本語教育に対する意識にも大きな変化を及ぼしている。

海外移民社会における日系子弟への日本語教育は移民社会における重大な課題であ

り、その歴史は海外移民史研究の中核をなすべき存在であるにもかかわらず、ブラジルにおいてはこれまで、日系移民史の中で断片的にしか扱われてこなかった。日本語教育史として独立して研究されることはほとんどなかったため、その全体像については未だ明らかになっていない。

2. 研究の目的

本研究は、日本人のブラジルへの集団移住開始から約100年の歴史を持つ日本語教育史を構築すべく、その基礎的作業としての日本語教育に関する書記資料および口述資料を収集し、ブラジル日本語教育史研究の基礎とするものである。

ブラジル移住開始から現在までの100年を、大きくは(1)戦前期、(2)戦中期、(3)戦後期、(4)現代の4つに区分し、各時代における日本語教育とはどのようなものだったのか、日系社会を取り囲む社会的背景や言語環境を踏まえ、教育実践の背景にある日本語教育の理念や言語観・子弟教育観と絡めながら記述・考察を行い、どのような変遷をたどり現在に至るのか歴史的視点から明らかにすることを目的とする。

3. 研究の方法

以下の時代区分に従い、各時代の日本語教育に関する書記資料および口述資料の収集を国内外で行った。

(1) 戦前期

①コロノ時代 (1908年～1920年代)

②植民地時代 (1930年代～1940年代前半)

(2) 戦中期

③空白の時代 (1940年代後半～1950年)

(3) 戦後期

④戦後移住の時代 (1950年代～1970年代)

(4) 現代

⑤デカセギ還流の時代（1980年代～現在）

日本で発刊された外務省・拓務省等による政府刊行物・報告書、民間の移民会社などによる移住者支援事業に関する書籍・報告書、ブラジルで発刊された邦字新聞、邦字雑誌、邦字文芸誌、日本人子弟のための日本語教科書や日本人子弟による日本語作文などの書記資料と、日系社会に暮らす日系人を対象に行ったインタビュー調査により資料を収集し、各時代におけるブラジル・日本双方の政治的・経済的・社会的状況、ブラジルでの言語接触・言語変容の背景、日本語教育・ポルトガル語教育との関わりについて考察を行った。

4. 研究成果

(1) コロノ時代

1908年～1920年代は、ブラジルへの移住が開始され、日本人移民の多くがコーヒー・コロノ（契約労働者）として移住生活を送り、次第に日本人集団地としての植民地を築いた時期である。日本で発刊された外務省・拓務省等による政府刊行物・報告書、民間の移民会社などによる移住者支援事業に関する書籍・報告書などにより、ブラジルへの移民開始の経緯や当時のブラジル・日本の政治的状況および国内の社会的状況、ブラジル日系移住地が誕生した背景と初期移民の暮らし、移住地内に日本語学校が創設された背景と当時の日本語教育の様子、そして移住先のブラジルで初期移民らが経験した言語接触・言語変容とその背景について考察を行った。

(2) 植民地時代

1930年代～1940年代前半は、アメリカでの排日移民法を背後に国策としてのブラジル移民が奨励され、ブラジルへの移住者が激増するとともに、ブラジル国内の日系植民地や植民地内での日本語教育が最盛期を迎える時期

である。この時期には邦字新聞、雑誌、文芸誌、また、ブラジルで初めての日本人子弟のための日本語教科書『日本語読本』が発行されるなど、日本語による出版物が多く刊行された。だが、その一方で、移民入国制限令、外国移民二分制限法などの各種法令により、ブラジル国内における外国人移民への圧力が徐々に強まり、ついには外国語新聞・雑誌の発刊禁止、外国語教育の禁止により、日本語の使用と日本語の教育が全面的に禁止された時期でもある。

(3) 空白の時代

1940年代後半～1950年は、第二次世界大戦で日本の敗戦を迎え、「勝ち組負け組」抗争という混乱期を経た後、祖国への帰国を諦め、ブラジルの地に永住を決意し、「ブラジルの日本人」としての新たなアイデンティティを析出していく時期である。

(4) 戦後移住の時代

1950年代以後、戦後移住者を迎え、戦前には「在伯同邦」などと自称していた日系社会は、次第に「コロニア」と自らを名乗り始め、「日伯混合語」などと呼んでいたポルトガル語混じりの日系人の日本語を「コロニア語」と呼ぶことで、日本の日本語とは違うブラジルの日本語の独自性を見出し、その存在意義を積極的に認めていった。このような日系人の意識の変化は、1960年代に発刊された「コロニア版教科書」と呼ばれる日系子弟のための日本語教科書に体现されることとなった。だが、70年代に移民の時代が終焉を迎えると、世代交代、職業の多様化、都市部への人口集中、高学歴化、非日系との結婚など、日系人の生活も大きく様変わりし、日本語からポルトガル語へ大きく言語シフトしていく中で、新たな日系コロニアの在り方を模索する必要に迫られ、それとともに従来の「日系子弟のための日本語教育」が揺らぎ始めていった。

(5) デカセギ還流の時代

1980年代以後、戦後移住も途絶えて移民の時代は終焉を迎え、ブラジル日系人の日本への還流、いわゆる「デカセギ・ブーム」が始まった。ブラジルでは、1980年代後半から、初等・中等教育機関における外国語教育プログラムや高等教育機関における日本語講座の開設などにより、公教育機関における第二外国語としての日本語学習者（主に非日系・成人学習者）が増加し、従来の日本語教育とは大きく様変わりした。かつて、ブラジルの日本語教育と言えば「日系子弟への日本語（国語）教育」、すなわち「継承語教育としての日本語教育」であったが、すでにこの時期、日本語からポルトガル語への言語シフトが完了した日系社会においては、学習者だけでなく日系の日本語教師にとっても日本語はすでに外国語となっており、実質上「外国語教育としての日本語教育」へと大きくシフトしつつあった。このようなブラジルにおける日本語教育のパラダイム転換、第二外国語教育としての日本語教育へという新たな方向性は、デカセギ現象によっても後押しされ、とりわけ1990年代後半以後顕著となり、日系社会における日本語観・日本語教育に対する意識にも大きな変化を及ぼした。

従来、研究対象の中心は日系人が集住するブラジル南東部（サンパウロ州・パラナ州）の戦前移住地であったが、本研究ではそれ以外の地域として、ブラジル北部（パラ州など）や、戦前移住者の多いブラジルと対照的なフィールドとして戦後移住者の多いパラグアイにおいても資料収集を行った。戦前移住者の多い地域か戦後移住者の多い地域か、また、都市の規模や日系人口規模の違いなど、南米日系社会における日本語教育について論じる際にも、このような歴史的・社会的・地理的背景を考慮する必要性のあることが明らか

かとなった。そして、書記資料に関しては、とりわけ戦前の資料は劣化がひどく、書記資料の整理・保存に加え、資料の電子メディア化およびデータベース化を早急に行う必要があると思われた。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計1件）

①中東靖恵「パラグアイ日系社会におけるアクセントの継承と変容—パラグアイの広島県人家族を対象に—」『社会言語科学』13(2) pp.72-87 2011年 査読有〔第11回徳川宗賢賞（優秀賞）受賞〕

〔学会発表〕（計7件）

①中東靖恵「ブラジルの日系社会と日本語—南米日系社会における日本語の変容—」広島・方言研究会, 2011年3月5日, 県立広島大学

②中東靖恵「パラグアイ日系社会における言語継承と言語生活の背景」長野・言語文化研究会, 2011年2月12日, 松本市あがたの森文化会館

③中東靖恵「パラグアイ日系社会におけるアクセントの継承と変容—パラグアイの広島県移民とその家族を対象に—」日本方言研究会第90回研究発表会, 2010年5月28日, 日本女子大学

④中東靖恵「ブラジル日系人にとっての「コロニア語」—ブラジル日系移民社会における言語接触の背景から—」日本語教育史研究会, 2008年3月22日, 早稲田大学

⑤中東靖恵「日本国内および海外日系社会の日本語におけるアクセントの継承と変容—日本・ブラジル・パラグアイの広島県人—」国際交流基金サンパウロ日本文化セン

ター日本語セミナー，2009年9月19日，
国際交流基金サンパウロ日本文化センター
（ブラジル）

⑥中東靖恵「ブラジル日系・沖縄系移民社会
における言語接触」慶應義塾大学言語政策
研究会，2009年12月22日，慶應義塾大
学湘南藤沢キャンパス

⑦中東靖恵「ブラジル日系社会における言語
の接触と変容」東北大学グローバル COE
プログラム国際移動研究部門ワークショ
ップ，2009年3月4日，東北大学

〔図書〕（計3件）

①NAKATO, Yasue. et al. Global Migration
and Ethnic Communities: Studies of Asia
and South America, 2012, Trans Pacific
Press. (pp. 211-231)

②中東靖恵, 他『日本語教育史論考 第二輯』
2011年 冬至書房 (p.112-123)

③工藤真由美・森幸一・山東功・李吉熔・中
東靖恵 『ブラジル日系・沖縄系移民社会
における言語接触』2009年 ひつじ書房
(pp.211-237, pp.245-368)

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

○取得状況（計0件）

〔その他〕

なし。

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中東 靖恵 (NAKATO YASUE)

岡山大学・大学院社会文化科学研究科・准
教授

研究者番号：90314658

(2) 研究分担者
該当者なし。

(3) 連携研究者
該当者なし。